

住人十色

第
185
回



1_有形民俗文化財の指定を喜び合う愛宕山保存会の皆さん。20～90代までの26人が所属
2_土俵の後ろに見えるのが棧敷席。石積みが南北に各9段、階段状に広がる 3_棧敷席にはメンバーの先祖の名前が刻まれた石も 4_相撲場跡近くの愛宕神社の前に、休憩スペースを設置

明治の相撲場、住民の熱意で町の文化財へ

中川地区・愛宕山保存会の皆さん

中川地区にある「愛宕山相撲場跡」は3月25日、内子町の有形民俗文化財に指定されました。明治31年に築かれた相撲場で、「愛宕山保存会」の皆さんが長年、保存活動に力を注いできました。

今回指定された相撲場跡には、石積み
の棧敷席が昔の姿のまま残されています。
中には氏名が刻まれた石もあり、当時の
指定席だったそうです。遺跡について愛媛
大学准教授の大本敬久さんは、「明治期ま
でさかのぼる相撲場跡は県内に類例がな
い。住民の手できれいに整備され、地域の
宝として熱心に守っているのもよく伝わ
る。素晴らしい文化財」と高く評価します。
管理道の整備や草刈り、案内板の設置
など、地道な活動が続けてきた同保存会
の皆さん。会長の谷本功さんは「指定はこ
れまでの汗の積み重ねであり、仲間たち
のおかげ」と感無量の表情を浮かべます。
地域の防火を祈願する奉納相撲は、昭
和20年ごろまで続いていました。当時は
相撲が一番の娯楽。土俵では住民同士が
取り合い、棧敷席からは勝敗が決まるた
びに歓声が上がリ、大盛況だったそう。
谷本さんは「中川のロマンあふれる歴史に
触れてもらえたら。多くの人たちに親し
まれる文化財であるよう、みんなで力を
尽くしていきたい」と目を輝かせました。

編集 幸記

▽私も幼い頃から参加していた大風合戦。絵が得意な祖父が、武将などを描いた大風を孫一人一人に作ってくれました。私の武蔵坊弁慶は、本当によく揚がる力作でした。楽しかった祭りの記憶がよみがえります(史)

▽「ぼくの夢わたしの夢」の掲載写真を選ぶ時間が好きです。今回は3パターンの計90枚から、ご本人の希望も伺って決定。私もお気に入りの一枚です。とはいえ、納得の写真が撮れるほうが少ないので、これからも肩こりに耐えながら修行します(花)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

